

小樽市教育研究所報

環流



第193号 令和7年6月25日

<目次>

巻頭言P1
教育研究所の活動についてP2
教育研究所情報	
研究図書についてP3
不登校対応についてP4
調査研究活動事業の研究指定校・団体	...P5
初任者紹介P6



「 所長就任にあたって 」

小樽市教育研究所長 野呂武志
(小樽市教育委員会教育部長)

今年の4月から、小樽市教育研究所長の任を務めることとなりました。

小樽市の教育の充実・発展に寄与すべく努力して参ります。

さて、本市のこれまでの日本遺産認定につきましては、他市と連携した取り組みによる「北前船」や「炭鉄港」でありましたが、今年2月に小樽単独のストーリーである「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都」が認定されました。



北海道の心臓と呼ばれたまち
OTARU

「民の力」で創られ蘇った北の商都というテーマは、小樽市民の精神を象徴しています。近代化の中で栄え、一度は衰退したこのまちが、再び輝きを取り戻した軌跡は、私たちの誇りであり、次世代に伝えていくべき財産です。

今後は、この日本遺産を活用し、小樽の魅力を国内外に発信し、地域活性化に繋げていく必要があります。観光振興はもちろん、教育機関との連携、文化財の活用や次世代への伝承など、幅広い取り組みが求められています。

小樽市教育推進計画の中に「ふるさと教育の充実」があります。まずは、日本遺産に関する教員向け研修講座を開催し、教員の理解を深め得た知識を、ふるさと教育として児童生徒に還元し、ふるさと小樽に対する理解を一層深め、郷土に対する誇りと愛着を育んでもらいたいと考えています。

研究所の一員として微力ではありますが、教職員の皆様の期待に応える研究・事業を推進してまいりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

令和7年度 小樽市教育研究所の活動について

新年度最初の所報を発刊するにあたり、改めて小樽市教育研究所の活動の概要について紹介いたします。教育研究所の業務内容は、「◎教職員研修に係ること」「○教育活動に係ること」「●教育相談に係ること」の3つに大きく分けられています。

◎教育研究の推進

第14次研究1年次目にあたり、研究主題「未来を生き抜くための思考力と創造性を育む学習指導の在り方」を追究するため、子どもを主語にした授業づくりを進めていきたいと考えます。そのために、一人一人にアプローチする指導として「指導の個別化」と選択を可能にする学習として「学習の個性化」に取り組んでいきたいと考えております。

<本年度の研究員>

八柳 圭介教諭 (松ヶ枝中学校), 村田あゆみ教諭 (手宮中央小学校)
 柴田 まみ教諭 (潮見台小学校), 齋藤 賢一教諭 (銭函小学校)
 鎌田 委美教諭 (山の手小学校), 菊地 洋平教諭 (長橋中学校)

◎研修講座の開催 (予定)

- ・ふるさと教育研修講座は、6月9日(月)に「小樽の歴史」の活用方法や「北海道の心臓、と呼ばれたまち・小樽」を含めた日本遺産に関することについて開催。
(2回目は、9月に実施予定)
- ・環境教育研修講座「おたるの自然」デジタル版の活用について実施予定。
- ・第14次研究検証授業 11～12月頃実施予定。

○社会科副読本, 理科教材, 歴史教材について

「わたしたちの小樽」は6・7年用を配布済です。「小樽の歴史」についても年度当初に5年生に配布済です。また、「おたるの自然」冊子版は学校備え付けです。デジタル版は1人1台端末で見ることができます。ご活用ください。

●教育相談活動の実施

- ・小中学生と保護者を対象に相談活動(面接・電話・メール)を行い、関係機関と連携を図りながら相談者に寄り添った対応に努めています。
- ・来所相談・電話相談: 22-4812
(月曜日～金曜日
午前8時50分～午後5時20分)
- ・教育相談メール:
kyoiku-sodan@city.otaru.lg.jp
- ・スクールソーシャルワーカー(SSW)が学校、家庭、関係機関と連携・協力し、子どもの置かれている環境の改善等に向けた活動を行います。

教育研究所職員

所長	野呂武志(教育部長)
副所長	谷口剛(学校教育支援室長)
主幹	瀧口博貴(学校教育支援室指導G主幹)
主査	平口山立治(学校教育支援室指導G主査)
主査	深田友和(教育総務課総務係長)
所員	高橋ありさ(教育総務課総務係)
所員	山内理恵子(教育総務課総務係)
所員	仲倉優
所員	木村俊夫
所員	藤崎淳(スクールソーシャルワーカー)

※スクールソーシャルワーカー(SSW)の勤務は、

月・水・金 11:15～17:00, 火・木 9:15～15:00 です。

教育研究所情報①

「こんな本がないかな」「こんな本が読みたいなあ」と思ったら



当研究所には、教育に係る蔵書が数多くそろっており、今日的な教育の流れに即した新刊も随時購入しております。これまでも、多くの教職員の方々に借りていただいておりますが、それぞれの課題や関心に応じたものがきっとあると思いますのでお気軽にお立ち寄りください。

また、「こんな本が読みたいけど、購入してもらえるのかな。」などのことがあれば、ぜひお知らせください。

<所員のお勧め書籍>

<貸出しの流れについて>

◎ 教育研究所への直接来所による貸出し

- ◆ 教育研究所にて、図書を自由にご覧いただき、希望の図書が見つかりましたら所員にお知らせください。



- ◆ 貸出し簿に必要事項を記入していただきます。
- ◆ *貸出し冊数に制限はありません。



- ◆ 返却期限までに教育研究所にご返却ください。
- *貸出し期間は2週間、新規購入図書は1週間です。

延長を希望される場合は連絡が必要です。



◎ 新規購入図書案内(チラシ等)による貸出し

- ◆ 教育研究所では年に数回新規購入図書についてチラシ等により各学校に案内をしております。



- ◆ ご希望の図書が見つかりましたら、電話またはメールにて教育研究所に①～③の事柄をご連絡ください。(電話・メール)
- ①学校名と氏名 ②図書名 ③希望貸出し期間



- ◆ 図書をメール便にて送付します。



- ◆ 返却期日までに教育研究所にお戻しください。(返却は3冊程度であればメール便でも可能)

【教育動向2025】

◎全教職員の皆さんへのお勧め本です。

おさえておきたい時事ワードや視点180項目の解説が掲載されています。

一次資料に簡単にアクセスできるQRコードも全項目ついてます。

【マンガでわかる 境界知能とグレーゾーンの子供たち】

◎すき間時間に読める本です

- ・境界知能の人が見ている世界
- ・困っている子を見逃すな
- ・生きづらい子を諦めない
- ・傷ついた子を救うために

全4巻です。「ケーキの切れない非行少年たち」シリーズの著者の最新作です。

【シン読解力】

◎時間がある時にゆっくり読みたい本です。

この本のタイトルである「シン読解力」とは、国語や読書の際に用いられる一般的にイメージされる読解力ではなく、「教科書を正確に読み解く力」をさしています。教科書が読めないのはなぜか、考えさせられる1冊です。

<お申し込み・お問い合わせ→小樽市教育研究所>

Tel 0134-32-4111 (内線 7222)

E-mail kyoiku-kenkyusyo@city.otaru.lg.jp

「指導と評価」「教育展望」「初等教育資料」は、定期購読しています。

教育研究所情報②

不登校対応について(概要)

小樽市・小樽市教育委員会より、令和7年3月「小樽市不登校対応マニュアル」が作成されています。

【基本編】

1 不登校対応への基本的な考え方

「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立する方向を目指すように働きかける。

不登校の原因・背景が多岐にわたることを踏まえた上で適切にアセスメントを行い、支援の目標や方針を定め、多職種の専門家や関係機関とも連携・協働しながら、「チーム」としての生徒指導体制に基づいて、個々の状況に応じた具体的な支援を展開する。

2 未然防止

学校や学級が、毎日通いたいと思える安心・安全な居場所とする。

誰にでも悩むことはあるということへの理解を促し、悩んだときに、人に話す・聞いてもらうことの重要性を伝えるための取組を行う。

3 早期対応

あらゆる情報をキャッチできるようにアンテナを高くしておく。

アセスメントに基づいて、支援の目標や方向性、具体的な対応策を検討するなどして、チームとして支援を行う。



【欠席に応じた対応編】

1 不登校の要因や背景は多様かつ複雑なことが多い。

学校は、SC や SSW などを活用して、チームによる組織的・計画的な支援を行う。

2 予兆をいち早く察知することが大切です。

学校は、情報の共有や面談、家庭訪問の実施等、組織的に対応し、全教職員で共通実践をする。

3 連続欠席3日目の対応

学校は、校内ケース会議を開催してアセスメントを行うとともに、当該児童生徒に応じた支援計画を策定し、家庭訪問を行う。

4 連続欠席7日目または断続欠席10日目の対応

学校は、小樽市教育支援センターに速報するとともに、校内支援会議において支援計画を修正し、家庭訪問を行い、必要に応じて関係機関と連携を図る。

また、当該児童生徒が登校できない場合には、保護者や小樽市教育支援センターと連携し、学びの場について相談する。

5 児童生徒本人と直接会うことができず、登校日で連続欠席30日に達した日の対応

学校は、小樽市こども家庭センターと SSW へ連絡し、今後の対応について相談する。

また、小樽市こども家庭センターは、学校からの連絡を受け、関係機関に連絡し、情報収集するとともに、SSW と対応について協議し、当該児童生徒の現認を試みる。

6 当該児童生徒の現認できない状況が継続する場合や、緊急性が高い場合

小樽市こども家庭センターは、北海道中央児童相談所や小樽警察署に連絡し、対応を協議する。

(参考 小樽市不登校対応マニュアル)

令和7年度 調査研究活動事業 研究校・研究団体を紹介します

小樽市教育研究所では、今年度13校6団体を研究校・研究団体に指定し、各学校・団体の研究活動の奨励・推進の支援に取り組みます。研修発表会を開催し、研究内容の交流を行います。年度末には研究集録を作成し、取組内容や成果、課題等をまとめます。

【研究校】

学校名	指定	学校の研究主題
稲穂小学校	推進校	主体的に学びだす稲穂の子ども ～伴走する教師の関わり方を工夫して～
花園小学校	推進校	自ら意欲的に学び、互いのよさを認め合う子どもの育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりのために～
山の手小学校	推進校	主体的に学びをつなぐ子どもの育成 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
潮見台小学校	推進校	主体的に考え、協働的に学び合う子どもの育成 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～
桜小学校	推進校	ともに学び、伝え合う子の育成 ～個別最適な学び・協働的な学びを通して～
望洋台小学校	推進校	自ら学び ともに高め合う 子どもの育成 ～一人一台端末を効果的に活用した子ども主体となる授業を通して～
銭函小学校	推進校	主体的に学び、高め合う子どもの育成
高島小学校	推進校	一人一人が主役 自ら学ぶ子どもの育成 ～見方・考え方を働かせた深い学びを実現する授業づくり～
西陵中学校	推進校	見方・考え方を働かせ、主体的に探究する生徒の育成
菁園中学校	推進校	主体的に学習に取り組む生徒の育成 ～見方・考え方を働かせ、探究する学習活動を通して～
奥沢小学校	交流校	主体的に学び、確かな力を実感できる子どもの育成 ～安心して学び合える授業づくり～
北陵中学校	交流校	「学びに向かう力」を育む授業改善 ～UDの視点から、みんなが参加し「わかる」を実感できる指導の工夫～
朝里中学校	交流校	自立した生徒の育成 ～主体的に学ぶ生徒～

【研究団体】

研究団体名	指定	研究団体の研究主題
小樽市算数数学教育会	推進団体	未来社会を切り拓く力を育む算数・数学教育の探究 ～主体的・対話的で深い学びの実践を通して～
小樽市社会科教育研究会	交流団体	郷土に夢と誇りをもち 未来を拓く子どもの育成 ～地域とのかかわりの中で、自らの課題を追究し主体的・対話的に学びつづける子どもを求めて～
小樽市複式教育研究会	交流団体	主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましく ふるさとを切り拓く子どもの育成 ～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に持続可能な未来を切り拓く力を育む学校・学級経営と学習指導の充実を目指して～
後志道徳教育研究会小樽支部	交流団体	豊かな関わりを通して、よりよく生きる児童・生徒の育成 ～考え・議論する道徳科の授業を通して～
小樽市学校体育研究会	交流団体	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育活動の創造
小樽英語教育研究会	交流団体	情報を整理しながら考えを形成し、英語で表現し、伝え合う児童生徒の育成 ～ICTの効果的な活用による個別最適と協働的な学びの一体化～

<令和7年度 初任者紹介・その1> 今年度新たに採用された市内の6名を紹介します。今回紹介できなかった方(7名)は、次号で紹介いたします。

小樽市立稲穂小学校 教諭 佐々木 直 雅



今年度より新規採用として小樽市立稲穂小学校に着任しました。「教員になりたい」という夢を叶えることができました。今日までの私の成長に携わってくださった先生方と同じように、私も子どもたちの未来を担う一端として、その責務を全うしたいと考えています。教職の難しさを感じながらも、子ども達から教えられることや同校の先生方や保護者・地域の皆様に支えていただくことで、「やりがい」を持って働くことができます。今後も、子ども達との出会いや先生方との縁を大切にしていきたいです。

小樽市立手宮中央小学校 教諭 新 敷 庸 二



今年度から新規採用として小樽市立手宮中央小学校に着任しました、新敷庸二です。着任から2ヶ月が経ちましたが、周りの先生たちの協力もあり、子どもたちと充実した毎日を送ることができています。これからも子どもたちが楽しく学校生活を送ることができるよう私自身も勉強を続けながらサポートしたいと思えます。同僚の先生たち、子どもたち、地域のみなさんから信頼される教員を目指して頑張ります。よろしくお願いいたします。

小樽市立桂岡小学校 教諭 亀 谷 莉 央



今年度から新採用で着任いたしました。毎日新しいことばかりの2ヶ月は、大変ながらも面白く、子どもたちと一緒にわくわくしながら過ごしています。どんな些細なことも伝えてくれる子どもたちの気持ちを受け止め、充実したコミュニケーションが取れる関係の構築を目指します。学級だけでなく、学校全体から見た子どもたちの様子も捉えることができるよう、職員や保護者の方との連携を忘れずに、教師として精進していきます。よろしくお願いいたします。

小樽市立山の手小学校 教諭 平 井 尊



新採用として小樽市立山の手小学校に着任しました。5年生の担任として、毎日が学びと反省の日々ですが、先生方に支えていただき2カ月過ごすことができました。地元小樽の子どもたちが楽しく学校に通えるように、相手の気持ちを考えて行動できる学級づくりを目指して頑張ります。信頼される教師になれるよう、日々学び成長していきたいです。よろしくお願いいたします。

小樽市立奥沢小学校 教諭 近 嵐 朱 音



今年度より小樽市立奥沢小学校に赴任しました。約2か月、自分の力不足を感じながらも、児童の笑顔と温かい言葉に支えられながら日々を忙しく過ごしています。私は小さい頃からの夢であった教員として勤めることができた喜びを忘れずに、子どもたちと共に1日1歩ずつ成長していきたいと思っています。喜びと共に責任を感じながら日々頑張っていきます。よろしくお願いいたします。

小樽市立銭函中学校 事務職員 橋 本 歩 実



このたび、小樽市立銭函中学校で事務職員として新規採用していただきました。子どもたちの学び、成長の環境づくりに尽力し、責任をもって業務に励んでいきたいと考えております。何かとわからないことが多く、ご迷惑をおかけする場面も多々あるかと思いますが、常に学ぶ姿勢を忘れず、円滑な学校運営に貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。